

2020	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31										
1	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金										
	普通展示(浮世絵) 月百姿 PartI (~2/2)													普通展示(陶芸) 表現を切り拓いて—十三代三輪休雪(三輪和彦)の陶造形(1/21~8/30)																											
	普通展示(東洋陶磁) 中国やきもの入門(華北編) (~2/2)													普通展示(陶芸) 萩焼 三輪壽雪の茶陶(1/21~4/12)																											
	特別展示 現在形の陶芸 萩大賞展V (~1/13)																																								
	特選鑑賞室 鳥居清長 大坂新町西槌屋 琴鶴太夫 りきの ふじの(1/1~1/31)																																								
茶室 桑田卓郎 Dear Tea Bowl, Horsetails are in season in Hagi. (~3/15)																																									
2	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金						
	※1 普通展示(浮世絵) 月百姿 PartII (2/4~3/8)																																								
	※2 普通展示(東洋陶磁) 花のある風景(2/4~5/17)																																								
	普通展示(陶芸) 表現を切り拓いて—十三代三輪休雪(三輪和彦)の陶造形(~8/30)																																								
	普通展示(陶芸) 萩焼 三輪壽雪の茶陶(~4/12)																																								
特選鑑賞室 二代歌川広重 諸国名所百景 周防岩国錦帯橋(2/1~2/29)																																									
茶室 桑田卓郎 Dear Tea Bowl, Horsetails are in season in Hagi. (~3/15)																																									
3	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
	普通展示(浮世絵) 月百姿 PartII (~3/8)													普通展示(浮世絵) 月百姿 PartIII (3/10~4/12)																											
	普通展示(東洋陶磁) 花のある風景(~5/17)																																								
	普通展示(陶芸) 表現を切り拓いて—十三代三輪休雪(三輪和彦)の陶造形(~8/30)																																								
	普通展示(陶芸) 萩焼 三輪壽雪の茶陶(~4/12)																																								
特選鑑賞室 鈴木春信 腰付馬で遊ぶ男児(3/1~3/31)																																									
茶室 桑田卓郎 Dear Tea Bowl, Horsetails are in season in Hagi. (~3/15)																																									

休館日 ★イベント ▲アーティスト・トーク ■ギャラリー・トーク

★イベント
 「お正月は美術館へ行こう!」
 日 時●1月2日[木]・3日[金]
 内容●新春ミュージアムコンサートなど
 出演●大板山たたら太鼓同好会、山口県交響楽団弦楽四重奏団

「萩美祭2019」
 萩の器と食 パート2
 日 時●1月9日[木] 19:00~
 協力・会場●Brasserie Lab

スペシャル 高校生茶会
 日 時●1月11日[土]・12日[日]
 ①10:30~ ②11:00~ ③11:30~
 ④13:30~ ⑤14:00~ ⑥14:30~
 会場●エントランスロビー
 協力●山口県立萩高等学校茶道部

▲アーティスト・トーク (出品作家による特別展示作品解説)
 日 時●1月5日[日] 11:00~12:00

■ギャラリー・トーク (担当学芸員による普通展示作品解説)
 いずれも11:00~(30分程度)
 1月11日[土] 月百姿 Part I
 1月25日[土] 萩焼 三輪壽雪の茶陶
 2月 8日[土] 花のある風景
 2月22日[土] 月百姿 Part II
 3月14日[土] 表現を切り拓いて—十三代三輪休雪(三輪和彦)の陶造形
 3月28日[土] 月百姿 Part III

※イベント詳細については美術館ホームページをご覧ください。
 ※アーティスト・トーク、ギャラリー・トークへのご参加には観覧券が必要です。

萩美祭 2019
 地域に関連する芸術によって交流促進することを目的としたアートイベント、萩美祭。今年度は第17回全国落校サミット萩大会とも連携して開催しました。その様子を一部でお伝えします。

11月24日[日]
 名取裕子 三輪龍氣生 対談
 ~私とやきものと萩~

11月30日[土]・12月1日[日]
 茶菓子作りデモンストレーション&ワークショップ

12月8日[日]
 創作茶花ワークショップ
 茶花でいける茶花

12月21日[土]・22日[日]
 金継ワークショップ

12月22日[日]
 萩高等学校合唱部による
 クリスマスコンサート

交通アクセス

【新山口駅から】
 ●直行バス「スーパースター」(約60分)で萩・明倫センター下車、徒歩約5分
 ●防長バス(約90分)で萩バスセンター下車、徒歩約12分

【山口宇部空港から】 萩・石見空港から
 ●萩近鉄タクシー(乗合タクシー)約70~80分(利用前日までに要予約)

【JR山陰本線】
 ●JR萩駅から萩循環まあるバス(西回り)約30分
 ●JR東萩駅から萩循環まあるバス(東回り)約30分
 ●JR玉江駅から徒歩約20分

【自動車】
 ●「中国自動車道」美祿東JCT経由、「小郡萩道路」絵堂ICから約20分
 ●「山陰自動車道」三見ICから約10分、国道191号沿い



H A G I 萩

WINTER 2020
94

題字は吉田松陰筆跡



《萩大賞》黒蜥蜴壺(くろとかげこ) 止原理美 Hagi Uragami Museum

現在形の陶芸 萩大賞展V 大賞受賞者 止原理美さんインタビュー



土和窯にて。

2019年9月8日(日)に行われた萩大賞展V公開審査にて、萩市内で作陶されている止原理美の「黒蜥蜴壺」がみごと大賞に選ばれた。

大賞を受賞しての想いや、今後の展望について、止原に伺った。

止原は、陶芸家である父・伸郎の長女として萩に生まれ、大学卒業後に帰郷してからは、萩焼の伝統的な窯元である十二代三輪休雪(龍氣生)・三輪華子に師事した。その後、父の工房である土和窯で自身の作品の制作を始め、2013年の「萩の陶芸家たち」展への初発表で審査員特別賞に選ばれて以降、数々の公募展で入賞・入選を果たしている。

黒陶は止原の代表的な技法と言える。黒陶は焼成時に『さや』という箱の中に作品を入れ、まわりに木粉をぎっしりつめてフタをし、焼成中に作品に酸素を触れさせないことで、炭化させて黒色に発色させる。この技法は父・伸郎が試行していたもので、そこに止原が三輪家での修行時代に得た、胎土の表面を磨く技法を加えることで、艶やかな光沢を得ている。

止原は黒陶を用いて、生き物を象ったオブジェを制作することが多い。大賞作品(下写真)のような壺型の作品を作ることは珍しいため、作品が受け入れてもらえるか自信が持てなかったと語った。

さらに今回、目を引くのは壺の頂部に留まる鮮やか

な蝶だ。これは酸素を奪う黒陶とは真逆

の、酸化焼成で下絵付をして鮮やかに焼き上げたもので、黒陶と組み合わせる試みも、今回が初めてのことである。

壺の底から這いあがった蜥蜴が、再生の象徴である青い蝶と合流する様は、止原にしては珍しい、明るいテーマを持っているという。止原の作品のモチーフは、今回の受賞作に代表されるような生き物であることが多く、大学で畜産を学んだ止原が、生き物の死にかかわっていく中で強く印象づけられたものだ。家畜が生命を絶たれる最期の際に、眼が黒く濁っていく様が、止原の創作の源となっている。そのため、止原は作品を作る時に眼にこだわりを持ち、暗くなった眼ではなく、光の宿った目を、極小のやさみので表現することに苦心している。

土和窯は萩の中心地からは少し離れた山中にある。街の喧騒からも離れた山々と森林に囲まれた環境で、家の中には昆虫やヤモリが頻繁に現れる。そうした自然との触れ合い、生き物に対する畏敬の念から、止原の作品たちは生まれているのである。

止原は最後に、大賞を受賞したことで黒陶(壺や蜥蜴)と酸化陶(蝶)を組み合わせることが、思っていたよりも人に受け入れられることが分かった。今後はこれらの組み合わせを、様々なバリエーションで試してみたいと語ってくれた。

止原の、より一層の活躍が期待される。



作品たちの『眼』。1センチに満たない眼に、1点1点彩色していく。



土和窯のギャラリー。黒陶とともに伝統的な萩焼の器が並ぶ。

取材・本文 柿添康平(当館学芸員)
撮影 市来真澄(当館学芸課主任)
取材日 2019年10月26日(土)

現在形の陶芸 萩大賞展V

THE HAGI TAISHOU
(GRAND PRIX) OF
CONTEMPORARY CERAMICS V

今回で5回目となる陶芸の公募展「現在形の陶芸 萩大賞展V」では日本全国から89人125作品の応募があり、2次にわたる厳正な審査の結果、84名105作品が入選しました。当館では入選した105作品を、2020年1月13日(月・祝)まで展示しました。

萩大賞



くろ とかげ こ
黒蜥蜴壺

とめほら まさみ
止原理美

岩国美術館賞



き っ つ こ う ろ
切り継ぎ 香炉

もりやま かん じろう
森山 寛二郎

優秀賞



たんせいゆうちやわん
淡青釉茶盃

おかだ やすし
岡田 泰



さいしきかいゆうきんさいちやわん
彩色灰釉金彩茶盃

なかお のぶひと
仲岡 信人



し の ちやわん
志野茶碗

はやし ゆ か
林 友加

審査員特別賞



こうごう は なが ほ たはら けいこ
香合~果てしなき流れの果てに 田原 形子



はぎちやわん
萩茶盃

たまむら しんいち
玉村 信一



いろ え きんざんさいじまもの
色絵金銀彩蓋物

わたなべ くにひろ
渡辺 国夫

佳作



せい
清

いまだ よう こ
今田 陽子



さいよくけしやうなみせんこくもんかき
彩色化粧波線刻文花器

うえだ かつゆき
上田 敦之



きんぎんさいはくじはくりやうねぶねおきはな
金銀彩白磁白龍船置花入

う え づ み なおこ
宇佐美 直子



うつろう
うつろ

かんた かずひろ
神田 和弘



かいき
回帰

かんた しんいち
神田 樹里



せきさいせんもん か き
赤彩織文花器

くにさだ かつひこ
國定 克彦



はぎちやわん
萩茶盃

だいどう こ ひさ
大道粉引

さかくら まさひろ
坂倉 正紘



ひぜん
備前 碗

たかしま せうへい
高島 聡平



べにぎんみずゆ
紅銀水指

あかつき もり
暁の森

たかはし とも こ
高橋 朋子



あおいいろにしきいんざん
青彩織象嵌茶碗

たはら 良蔵
田原 良蔵



てつゆうしほうび
鉄釉四方鉢

ふるの せいじ
古野 勢児



ちやわん
茶盃

みやじま まさし
宮島 正志



はぎちやわん
萩茶盃

もりしげ
守繁 徹



からつちやわん
唐津茶盃

あみなぎ 頼山
安永 頼山



おりおりのいろ
ORIORI NO IRO

わたなべ しょうこ
渡邊 陽子

月百姿 Part II, Part III

PartII 令和2年(2020)2月4日(火)～3月8日(日)

PartIII 令和2年(2020)3月10日(火)～4月12日(日)

普通展示(浮世絵)

つきおかよとし
月岡芳年は明治時代に活躍した最も知られる浮世絵師の一人です。とくに幕末から明治にかけての政情不安を意識させる残酷絵、西洋の合理的精神に基づいた写実的な歴史画や稗史絵の作品は芳年が築いた独特の世界といえます。

「月百姿」は晩年の代表作の一つで、明治18年(1885)から同25年(1892)にかけて版行された百枚の大作です。日本や中国の物語、謡曲、稗史、逸話などから題材を得て、月のさまざまな姿を表現しています。



月岡芳年「月百姿 五條橋の月」
大判錦絵、明治21年(1888)
Part IIにて展示



月岡芳年「月百姿 むさしの、月」
大判錦絵、明治25年(1892)
Part IIIにて展示

桑田卓郎 Dear Tea Bowl, Horsetails are in season in Hagi.

茶室

令和元年(2019)4月2日[火]～令和2年(2020)3月15日[日]



撮影：武田陽介

来年度の茶室展示作家 沖潤子さんより、みなさまへ展示に使用する糸巻きのご提供をお願いしています。お手元にお譲りいただけるミシン糸、手縫い糸、穴糸がございましたら、ぜひご協力をお願いいたします。

期間 令和元年(2019)10月20日[日]～令和2年(2020)2月末日(予定)

◆ご提供いただける方は、itomakioki@gmail.comまで、お名前、ご連絡先、ご提供いただける糸巻きの数(数が多い場合はおおよその数)を、事前にお知らせください。作家から、折り返しご案内いたします。メールをご利用でない方は、当館へ直接ご持参いただくことも可能です。

花のある風景

令和2年(2020)2月4日(火)～5月17日(日)

普通展示(東洋陶磁)

やきものに表現された「花」にはどのような意味があるのでしょうか。

季節を感じる楽しみのほかに、吉祥や格式を表現しているもの、象徴として用いられるものなど様々な言葉がかかれています。

自然と目を奪われてしまう花の色彩や形といった写実的な美しさだけではない、花が生み出す世界観に注目します。



青花蓮池文瓶 元時代・14世紀

表現を切り拓いて—十三代三輪休雪(三輪和彦)の陶造形

令和2年(2020)1月21日(火)～8月30日(日)

普通展示(陶芸)

十一代三輪休雪(壽雪 1910-2012)の三男に生まれ、令和となって襲名した十三代三輪休雪(本名・和彦 1951-)は、萩焼の伝統を受け継ぎながらも常に土の生の主張を聞き続け、斬新で力強い陶造形を生み出してきました。

そうした挑戦の一方で、陶芸家にとって基本となる轆轤による器表現を忘れたことはありませんでした。器とは、「轆轤」と作り手自身の「身体」と「土」との三位一体によって生み出される陶芸家にとって原点といえるものであり、今回紹介する《Bowl with Light》(2005年)は、「光」、「水」といった根源的な表現により、器とは何かということを変更して問い直すものです。

また《阿》《吽》(2006年)は、「金継ぎ」という極めて日本的な美意識を示すとともに、さらに「後世にのこす、伝える」といったわが国における最も大切な思想の一つにもつながっています。

今展ではこれまで常に新たな表現を切り拓いてきた十三代休雪の原点とも言うべき陶造形を紹介します。



十三代三輪休雪(三輪和彦)《阿》《吽》2006年
撮影：田中学而

萩焼 三輪壽雪の茶陶

令和2年(2020)1月21日(火)～4月12日(日)

普通展示(陶芸)

三輪壽雪(本名節夫・十一代休雪)は1902年に萩に生まれ、1927年に萩中学校を卒業してからは、15歳年長の兄である三輪休和(本名邦廣・十代休雪)の家業を助けました。以降、実業家でもあり生粋の文化人でもあった川喜田半泥子への弟子入りを経て、自身の作品を発表し始めたのは1955年、45歳となつてからのことです。発表された、従来の萩焼には見られない立体的でボリュームのある造形感や、兄とともに藁灰釉を改良した「休雪白」といった要素は、様々な話題性を呼び起こしました。

こうしたたゆまぬ作陶活動の末、1967年には兄の十代休雪の隠居を受け十一代休雪となり、1983年には重要無形文化財「萩焼」の保持者(人間国宝)に認定されています。

本展では、茶陶としての萩焼の既存観念に決して捉われることなく、己の作陶を表現した、三輪壽雪の茶陶を紹介します。



三輪壽雪(11代休雪)鬼萩窯変割高台茶碗 2006年

令和元年度の新収蔵資料について

本年度の資料収集活動（資料の受贈）として、下記一覧表のとおり陶芸64件、赤間硯1件、あわせて65件の資料を受贈しました。いずれの資料も、今後の当館における展示をはじめとする美術館活動において有効に活用させていただく予定です。
このたびの資料収集にあたりまして、貴重な資料を御寄贈くださいました皆様をはじめ、お世話になりました関係各位に心よりお礼申し上げます。

陶芸

番号	作品名	制作者	質料	制作年	制作地	寸法 (cm)	寄贈者(敬称略)
1	五彩花鳥文鉢	不詳	陶磁	明時代 17世紀	中国・漳州窯	高12.6 口径24.0 高台径9.6	浦上敏朗
2	白磁小壺	不詳	陶磁	朝鮮時代 16世紀	朝鮮	高6.5 口径7.5	浦上敏朗
3	染付文字文杯	不詳	陶磁	江戸時代	日本	高4.6 口径6.0	浦上敏朗
4	染付陽刻鷺文変形皿	不詳	陶磁	江戸時代 17世紀後半	日本	高2.4 口径16.0×12.0 高台径9.0×5.3	浦上敏朗
5	染付蓋物	不詳	陶磁	江戸時代	日本	総高4.0 口径4.8	浦上敏朗
6	色絵梅菊文碗・皿	不詳	陶磁	江戸時代 18世紀	日本	碗：高4.2 口径6.6 皿：高2.2 口径11.1	浦上敏朗
7	色絵花卉文碗・皿	不詳	陶磁	江戸時代 18世紀	日本	碗：高3.8 口径7.0 皿：高2.0 口径11.4	浦上敏朗
8	青磁筒形香炉	不詳	陶磁	南宋～元時代 13～14世紀	中国・龍泉窯	高7.0 口径8.9	
9	萩茶碗	伝 三代坂新兵衛	陶磁	江戸時代 18世紀	日本	高7.7 口径13.2 高台径6.0	
10	萩赤楽茶碗	伝 五代三輪勘七	陶磁	江戸時代 18世紀	日本	高7.3 口径10.5 高台径4.8	
11	萩鮫釉建水	不詳	陶磁	江戸時代中期～後期	日本	高7.5 口径13.0×12.0 底径8.3	村川成見
12	萩白釉花瓶	不詳	陶磁	19世紀	日本	高41.5 口径12.0 胴径21.0 底径14.4	村川成見
13	炭化象嵌蝶文花生	小野寺玄	陶磁	2000年頃	日本	高42.5 胴径29.0	小野寺淳子
14	炭化象嵌鳥文花生	小野寺玄	陶磁		日本	高34.0 胴径24.0	小野寺淳子
15	炭化練上壺	小野寺玄	陶磁	1992年頃	日本	高31.0 胴径37.5	小野寺淳子
16	炭化焼締壺	小野寺玄	陶磁	1976年頃	日本	高31.0 胴径40.0	小野寺淳子
17	炭化渦文面取壺	小野寺玄	陶磁	1979年	日本	高28.0 胴径35.5	小野寺淳子
18	炭化渦文面取壺	小野寺玄	陶磁	1979年	日本	高33.5 胴径33.5	小野寺淳子
19	炭化練上線文鉢	小野寺玄	陶磁		日本	高13.0 口径44.0	小野寺淳子
20	炭化練上大平鉢	小野寺玄	陶磁		日本	高15.0 口径50.0	小野寺淳子
21	炭化焼締台付長皿	小野寺玄	陶磁		日本	高12.0 幅57.5 奥行38.0	小野寺淳子
22	炭化焼締六角台鉢	小野寺玄	陶磁	1983年	日本	高12.0 幅48.5 奥行46.5	小野寺淳子
23	伊豆土縞文淡黄角皿	小野寺玄	陶磁	1972年	日本	高10.5 幅44×奥行42	小野寺淳子
24	灰釉大鉢	小野寺玄	陶磁		日本	高19.0 口径48.5	小野寺淳子
25	炭化焼締線文水指「すだれ」	小野寺玄	陶磁	2004年	日本	高18.0 口径15.0	小野寺淳子
26	伊豆土灰被花生	小野寺玄	陶磁		日本	高22.5 胴径23.5	小野寺淳子
27	炭化流文花瓶	小野寺玄	陶磁	1997年以降	日本	高22.5 胴径16.0	小野寺淳子
28	炭化焼締面取花生	小野寺玄	陶磁	2005年頃	日本	高24.2 胴径17.8	小野寺淳子
29	炭化焼締面取花生	小野寺玄	陶磁	2005年頃	日本	高23.6 胴径16.3	小野寺淳子
30	炭化焼締砧花生	小野寺玄	陶磁	2006年	日本	高20.0 胴径15.0	小野寺淳子
31	炭化焼締砧花生	小野寺玄	陶磁	1988年頃	日本	高22.4 胴径11.4	小野寺淳子
32	炭化焼締砧花生	小野寺玄	陶磁		日本	高20.5 胴径19.0	小野寺淳子
33	炭化焼締筒首花生	小野寺玄	陶磁		日本	高24.0 胴径11.0	小野寺淳子
34	炭化焼締扁壺	小野寺玄	陶磁	1988年頃	日本	高24.5 幅17.5 奥行14.5	小野寺淳子
35	炭化焼締俵壺	小野寺玄	陶磁		日本	高17.0 幅18.0 奥行15.5	小野寺淳子
36	炭化焼締瓜花生	小野寺玄	陶磁	1979年	日本	高29.0 胴径11.5	小野寺淳子
37	炭化焼締缶	小野寺玄	陶磁		日本	高14.0 胴径9.5	小野寺淳子
38	炭化焼締手付鉢	小野寺玄	陶磁		日本	高18.1 幅26.6 奥行22.6	小野寺淳子
39	炭化焼締六角台鉢	小野寺玄	陶磁	1988年頃	日本	高6.5 幅36.5 奥行40.0	小野寺淳子
40	炭化練上連山図水指	小野寺玄	陶磁	1988年	日本	高33.0 胴径16.5	小野寺淳子
41	炭化焼締香炉	小野寺玄	陶磁		日本	高13.0 胴径12.0	小野寺淳子
42	茶碗	小野寺玄	陶磁		日本	高7.5 口径13.0	小野寺淳子
43	墨流茶碗	小野寺玄	陶磁		日本	高7.0 口径10.5	小野寺淳子
44	玄の土茶碗	小野寺玄	陶磁	2010年頃	日本	高8.5 口径11.0	小野寺淳子
45	炭化象嵌徳利	小野寺玄	陶磁		日本	高13.0 胴径8.0	小野寺淳子
46	炭化線象嵌徳利	小野寺玄	陶磁	2004年頃	日本	高11.5 胴径8.0	小野寺淳子
47	炭化焼締片口	小野寺玄	陶磁		日本	高8 幅17.5 奥行14.5	小野寺淳子
48	灰釉中鉢	小野寺玄	陶磁		日本	高10.0 口径25.0	小野寺淳子
49	伊豆土灰釉組皿	小野寺玄	陶磁	1970年代	日本	各高2.5 各口径17.5	小野寺淳子
50	伊豆土灰釉組皿	小野寺玄	陶磁	1970年代	日本	各高3.0 各口径9.0	小野寺淳子
51	炭化焼締くい呑	小野寺玄	陶磁		日本	高4.5 口径8.0	小野寺淳子
52	大峠くい呑	小野寺玄	陶磁		日本	高5.0 口径7.5	小野寺淳子
53	墨流くい呑	小野寺玄	陶磁		日本	高5.5 口径7.5	小野寺淳子
54	鉄釉くい呑	小野寺玄	陶磁		日本	高5.0 口径7.0	小野寺淳子
55	炭化焼締陶彫「梟」	小野寺玄	陶磁		日本	高40.0 幅17.8 奥行15.9	小野寺淳子
56	「望む」	小野寺玄	陶磁	2011年	日本	高27.0 幅13.5 奥行13.5	小野寺淳子
57	「ふくろう」	小野寺玄	陶磁	2013年	日本	高13.0 幅8.5 奥行7.5	小野寺淳子
58	「アオバト」	小野寺玄	陶磁	2014年	日本	高19.5 幅13.0 奥行7.0	小野寺淳子
59	「つば果の小鳥」	小野寺玄	陶磁	2012年	日本	高17.0 幅18.5 奥行17.0	小野寺淳子
60	「祈り」II	小野寺玄	陶磁	2011年	日本	高28.0 幅21.8 奥行21.5	小野寺淳子
61	黄瀬戸釉皿「ハチ」	小野寺玄	陶磁	1969年	日本	高7.0 口径33.5	小野寺淳子
62	黄瀬戸釉皿「カマキリ」	小野寺玄	陶磁	1969年	日本	高4.5 口径33.0	小野寺淳子
63	珠洲土壺	小野寺玄	陶磁	1977年	日本	高26.0 胴径32.0	小野寺淳子
64	珠洲壺	不詳	陶磁	14世紀	日本	高38.1 胴径27.9	小野寺淳子

赤間硯

番号	作品名	制作者	質料	制作年	制作地	寸法 (cm)	寄贈者(敬称略)
1	長方硯	日枝玉峯	赤間石	2017年	日本	高3.8 縦21.5 横15.5	

受贈資料

◆ 陶芸 (一部)



1 《五彩花鳥文鉢》(呉州赤絵)
明時代 17世紀 中国・漳州窯



10 伝 五代三輪勘七 《萩赤楽茶碗》
江戸時代 18世紀



14 小野寺玄 《炭化象嵌鳥文花生》



15 小野寺玄 《炭化練上壺》 1992年頃



18 小野寺玄 《炭化渦文面取壺》 1979年



19 小野寺玄 《炭化練上線文鉢》



23 小野寺玄 《伊豆土縞文淡黄角皿》 1972年



40 小野寺玄 《炭化練上連山図水指》 1988年



55 小野寺玄 《炭化焼締陶彫「梟」》



61 小野寺玄 《黄瀬戸釉皿「ハチ」》 1969年



63 小野寺玄 《珠洲土壺》 1977年

◆ 赤間硯



1 日枝玉峯 《長方硯》 2017年